

一般財団法人  
松本記念財団  
創立 10 周年

2013 - 2023





松本 滉太

理事

松本 謙一

代表理事

一般財団法人松本記念財団 創立 10 周年記念対談

## 「3つの心」と「絆」 10年の歩みと見据える未来

松本記念財団 10 周年を記念して、松本謙一代表理事と、2022 年に理事に就任された松本滉太理事に、これまでの活動の振り返りと今後の抱負についてお話しいただきました。

対談者 ■ 松本謙一（一般財団法人松本記念財団 代表理事）

■ 松本滉太（一般財団法人松本記念財団 理事）

司 会 ■ 長谷川フジ子（一般財団法人松本記念財団 理事・事務局長）

### 「3つの心」と財団設立

**司会** ■ 2023 年、松本記念財団は創立 10 周年を迎えました。この節目を記念して、お二人にこれまでの活動の振り返りと今後の抱負についてお話ししたいと思います。

まずは松本謙一代表理事に、財団設立のきっかけをおうかがいします。

**代表理事** ■ 第一に、「パラマウントベッド株式会社」の「公益財団法人木村看護教育振興財団」など、医療業界に貢献する団体に対して、憧れがありました。立派な研究助成や人材育成をやっておられるなとかねがね思っていて、自分も同じように活動したいと考えていました。

また、時代の移り変わりとともに、企業の利害得失には繋がらない仕事にも取り組みたくなるだろうという予想もありました。業界への貢献に繋がる活動を、企業だけでなく財団としても行いたいと思ったのです。

さらに言うと、今も信念として持つ

ている「3つの心」——「利他の心」「協業の心」「ユーモアの心」が根幹にありますね。

**司会** ■ 「3つの心」について、もう少し詳しくお聞かせください。

**代表理事** ■ 利己主義に走って不正を起こすことがないように、という「利他の心」。他人のことを考えれば、不正をする気持ちも自然と起きなくなります。

次に、「協業の心」。競争ももちろん進歩のエネルギーになるものですが、DX の推進が求められている現在、協業がより重要になってくるのではないかと思います。1+1 が 3 や 5 を生む、シナジー効果に繋がる考え方ですね。

最後が、「ユーモアの心」。ダジャレでもマジックでもいいのですが、常にユーモアを通して心のゆとりを持つことが大事です。外国の方と交流をするにあたって、言葉が通じなくても心を通わせたり相手を笑顔にさせたりする、そのための手段にもできるユーモアです。

これら「3つの心」を実践する組織

として財団があれば良いと思ったのも、設立に至った一つの要因です。「利他の心」に類する考え方ですが、「世のため人のため」が、財団設立の想いの根源にあります。

### これまでの活動について

**司会** ■ 松本滉太理事は、昨年からは理事として関わっていますが、組織の内側から関与するようになって以降、財団の活動についてどのような印象を受けていますか。

**理事** ■ コロナ禍ということもあり、グローバルな活動はあまりできず、国内での活動も制限されていました。それでも日々感じてきたのは、松本謙一代表理事のお話にもあった「利他の心」という代々紡がれてきた想いです。その想いと、財団の目的の一つである医療人材の育成とが重なっていて、非常に意義のある活動をしているのではと思います。

一方で、これまでの活動は代表理事の人脈が大きく貢献している部分があ

ります。日々、「利他の心」の信念のもと行動してきた結果ですね。これ自体は喜ばしいことですが、この先財団が長く活動を続けて、さらに強く医療業界に貢献していくためには、代表理事のような「人」に紐づいた活動だけではなく、財団という「組織」に紐づいた活動も増やしていく必要があると思っています。

**司会** ■特に、「こういった活動を続けていきたい」というものはありますか。  
**理事** ■どれか特定の活動を続けるというより、グローバルな活動全般を、この先も同じぐらいの熱量で続けていかなければならないと思っています。

世界に対して財団から提供できるものもあれば、逆にグローバルな活動を行うことで財団が得られる知見もあると思います。グローバルな活動で得られた知見を反映して、活動の範囲を広げていく。そして医療業界に強く貢献していく。

個々に何かを、というよりも全体的な方針を大事にしていきたいです。

## たゆみない行動が生んだ絆

**司会** ■これまで築いてきた絆がきっかけとなり次の活動へ繋がった例もあります。絆を結ぶために大切なのはどのようなことだとお考えですか。

**代表理事** ■例えば、財団では「看護師のための英会話レッスン」を行っていますが、教室で言語を学ぶだけでなく、「人」と心の交流をして絆を作っていくことが重要だと思っています。交流して絆を作っていくことで、どんどんビジネスに繋がっていくんですね。実際、私は一人で海外に行って、現地で実践的に英語を学ぶなどして英語力を培ってきました。

これまで度々、活動で関わってきた



人たちと運命的な出会い・再会をしてきましたが、それは行動していないと起きないものです。今でも現場が好きなので、外国であってもひたすら現場に飛んでいきます。

動けば動くほど面白いんですよ。何歳になっても、好奇心は大事なものです。

**司会** ■松本謙一代表理事は数々の印象的なエピソードをお持ちですね。

**代表理事** ■数十年前にキューバへ訪問したときのことが印象深いですね。キューバには日本の中小企業があまり進出していませんでしたが、興味を抑えきれず行動に移しました。そういった国に行ってみると、非常に面白いんです。

現地に行った際、偶然フィデル・カストロ首相(当時)に会い、話をすることになりました。会話の中で、カストロ首相は「自分は平和的な方法で万民平等主義を実現する」と語っていて、それを聞いた私は「私も同じ考え方だ」と賛同して、その場で握手をしたのです。

この絆が、後に財団の活動としてキューバとの文化交流や「キューバ人材育成基金」設立に繋がりました。

**理事** ■松本謙一代表理事が自ら行動を起こして外に出て行き、様々な活動に繋がっていることは、私も認識しています。財団内だけでなく財団の外の活動でも同様の信念を持っていること、その信念が確かな結果を生み出していることも実感しています。

代表理事の姿から学んで、私も口に出すだけでなく実際に行動に移さないといけないのだと痛感するところです。

動けば動くほど面白いんですよ。  
何歳になっても、  
好奇心は大事なものです。

——松本謙一代表理事



## 財団の今後について

**司会** ■今後の財団の活動としてどのような取り組みがあると良いと思いますか。

**理事** ■基本的には方針を大きく変えることはなく、これからも「利他の心」を最も大切にしていかなければならないと思います。その軸に基づいて、医療人材育成などの目標に向かっていくべきだと考えます。

今後の具体的な活動を紹介すると、「看護師のための海外学会発表助成制度」の再開、外国語教育の充実、文部科学省の「トビタテ！留学JAPAN」への寄付、NPO法人ロシナンテスへの寄付・支援などですね。

**司会** ■松本渥太理事は特に若い人材の育成に目を向けられていますね。中でも、2023年から2027年にかけて寄付を行う予定の「トビタテ！留学JAPAN」は、高校生が主な対象となっています。

最後に、松本謙一代表理事から今後の抱負や伝えたいことなどをお願いします。

**代表理事** ■医療機器業界として、例えば脱炭素社会への協力などに繋がるような、マクロな意識を持ってほしいです。製薬業界などの他の業界に比べると、医療機器業界はそういったマクロな意識が薄いのではと感じています。

また、企業のビジネスとしてはできない経済面の問題への対処を、財団法人としてやっていきたいと思ひますし、活動が感染制御に偏ってきた側面があるので、その偏りを戻すことをしなければいけないなとも思っていますね。

**司会** ■個別に取り組むのではなく、全体が繋がった話として、幅広い領域で財団の活動がなされていくことと思います。今日は貴重なお話をありがとうございました。

# (一財) 松本記念財団の主な活動 2013-2023

一般財団法人松本記念財団は、グローバルに活躍できる医療人材の育成のために2013年に設立されました。代表理事は松本謙一です。ヘルスケアの分野での国際交流と次世代を担う国際医療プロフェッショナルの人材育成を主な事業として活動しています。

● 国際交流 ★ 人材育成 ■ 国内活動

## 2013

- 9月：モルドバにて初のグローバルヘルスケアセミナーを開催
- ★11月：スウェーデンやベルギー等での海外短期研修を支援



初めて主催した海外セミナー (モルドバ)

## 2015

- 7月：第1回キューバ医療情報視察ミッションを実施
- 10月：安倍元総理の中央アジア5カ国のミッションに随行



安倍元総理と(ウズベキスタン)

## 2017

- 7月：ミャンマーの医療情報視察ミッションのためにヤンゴンを訪問
- 8月：第2回キューバ医療情報視察ミッションを実施



セントラルウイメンズ病院を視察 (ミャンマー)

## 2019

- 2月：「キューバ人材育成基金」設立調印式をハバナで行う
- ★ 3月：ベトナムで開催された「APSIC2019」で財団助成制度の採択者が学会発表
- ★ 4月：日本初「ポジティブヘルス養成研修」をオランダと福井で開催
- 4月：新ヤンゴン総合病院から医師2名を招聘
- 5月：第1回日中感染対策交流会を北京で開催
- 6月：ミャンマーにて第2回ヘルスケアセミナーを開催
- 8月：第2回日中感染対策交流会を南寧にて開催
- 10月：ウズベキスタンの医療情報視察のためタシケントを訪問
- ★12月：看護師のための英会話レッスンを大阪で開催



調印式にて。ラテンアメリカ医科大学の大学長と(キューバ)

## 2021

- 4月：「ワクチン接種時の英語表現」をYouTubeで公開
- 6月：第1回松本財団—OMETA 共催ウェブセミナーを開催
- 10月：「ワクチン接種時の多言語表現」をYouTubeで公開

## 2023

- ★ 4月：米国で開催される「APIC 2023」での財団助成制度の採択者を決定
- ★ 4月：文部科学省が推進する海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN」への寄付・支援を実施
- 5月：NPO法人ロシナンテスへの寄付・支援を実施



アフリカで支援活動を行うNPO法人ロシナンテスの川原尚行先生(写真：内藤 順司)

## 2014

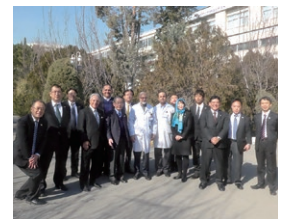
- 7月：民間外交推進協会(FEC)ミッションに参加し、ウズベキスタン、カザフスタンを訪問
- 12月：ウズベキスタンの下院議員選挙の公式国際監視委員として参加



下院議員選挙で公式国際監視委員を務める(ウズベキスタン)

## 2016

- 2月：医療事情視察のためにOMETA / JAMDI イラン訪問団として、イランを訪問
- 12月：ウズベキスタン大統領選挙の公式国際監視委員として訪問



医療関係施設を訪問(イラン)

## 2018

- 2月：人と医療の未来をつなぐ情報紙『絆ニュース』を創刊
- 4月：セミナー「オランダのICTを利用した病院薬剤師業務の現状と今後」を東京大学にて開催
- 5月：第1回日本・ミャンマー医療情報交換会を開催
- 6月：「ポジティブヘルス」研修視察のため、オランダリンブルグ州を訪問
- ★10月：看護師のための英会話レッスンを開始



新ヤンゴン総合病院の院長から、松本代表理事に記念品を贈呈(ミャンマー)



ファロン先生による英会話レッスンの様子(東京)

## 2020

- 6月：コロナ禍で活躍する看護師に対して(公社)東京都看護協会への寄付・支援を実施
- 10月：「知恵と雅」～感染症に負けない人と街～を港区と共催で実施



扇子を使った感染症予防を学ぶイベント「知恵と雅」(東京)

## 2022

- 4月：ウクライナ難民支援のため、NPO法人TMATへの寄付・支援を実施
- 6月：第2回松本財団—OMETA 共催ウェブセミナーを開催
- ★11月：慶應義塾大学大学院への寄付・支援を実施



「医療機器をめぐる最新の動向について」共催セミナーの様子(東京)